

グローバル戦略課題としての中東 —2030年の見通しと対応—

平成27年3月



公益財団法人日本国際問題研究所
The Japan Institute of International Affairs

はしがき

本報告書は、当研究所の平成 26 年度外務省外交・安全保障調査研究事業（総合事業）の一つである「グローバル戦略課題としての中東—2030 年の見通しと対応」の研究成果として取りまとめたものです。

本研究プロジェクトでは、今やグローバルな課題となっている中東地域の安定の確立に向けて、日本外交の役割について政策提言を行うために、中東地域の政治的変動の諸要因を分析し、2030 年頃までの展望を予測（シナリオ・プランニング）することを活動の内容としています。

中東地域の安定は、地域を超えたグローバルな課題であり、日本外交にとっても死活的に重要な問題と言えます。第一に、世界最大の原油産出地域である中東地域は、エネルギー供給を通じて世界経済の命運を握る存在です。シェールガスや再生可能エネルギーの開発など、中東以外でのエネルギー資源開発によって、中東産原油が世界のエネルギー供給に占める割合は漸減傾向にあるとはいえ、中東の石油は引き続き世界の主要なエネルギー源であり続けるとみられます。特に日本は、原子力発電による電力供給が停止している中、原油供給の約 8 割を中東地域に依存しており、中東情勢は、今後も日本を含めた世界の経済と社会に大きな影響を与えることが想定されます。第二に、中東地域は、多くの紛争や安全保障上の問題を抱える地域であり、その帰趨は米欧を中心にグローバルな影響を与えます。1970 年代以降の中東では、1979 年のイラン革命をはじめとして、イスラームの大義に基づいた国際秩序と政治・社会の変革を訴える思想・運動が大きな力を持つようになりました。今やグローバルな課題の一つとなっている「テロ防止」を効果的に進めていくためには、イスラーム主義という名称でくくられているさまざまな思想・運動の内実を分析し、中東地域の住民の多数が信仰するイスラームという要素を、どのようにテロの抑止と地域の安定・発展に結びつけていくかを考える必要があると言えます。

さらに、中東問題は、国際社会を主導している欧米諸国の内政と外交の双方について、相互に影響し合っているという意味においてもグローバルな性格を有しています。ヨーロッパは歴史的にも深いつながりを有し、20 世紀後半からはアメリカが、近年では経済成長著しい中国が中東地域に強く関与してきています。国際社会と中東地域の相互影響のこれまでの経緯と今後の展望を分析することは、グローバルな外交課題として中東地域の問題を捉えるうえでの重要な作業と言えるでしょう。

本報告書に表明されている見解は全て各執筆者のものであり、当研究所の意見を代表するものではありませんが、本書が中東地域を考察する上での一助となれば幸いです。

最後に、本研究に終始積極的に取り組まれ、本報告書の作成にご尽力をいただいた執筆者各位、その過程でご協力いただいた関係各位に対し、改めて深甚なる謝意を表します。

平成 27 年 3 月

公益財団法人 日本国際問題研究所
理事長 野上 義二

研究体制

主査：	長澤 榮治	東京大学東洋文化研究所教授
委員：	今井 宏平	日本学術振興会特別研究員 PD・明治大学（研究協力者）
	江崎 智絵	防衛大学校准教授
	小野沢 透	京都大学大学院文学研究科准教授
	小林 良和	一般財団法人日本エネルギー経済研究所 化石エネルギー・電力ユニット 石油サブユニット石油グループマネージャー研究主幹
	清水 学	ユーラシア・コンサルタント代表取締役
	保坂 修司	一般財団法人日本エネルギー経済研究所研究理事
	森山 央朗	同志社大学神学部准教授
	横田 貴之	日本大学国際関係学部准教授
	吉岡 明子	一般財団法人日本エネルギー経済研究所 中東研究センター主任研究員
委員兼幹事：	飯島 俊郎	日本国際問題研究所副所長
	貫井 万里	日本国際問題研究所研究員
担当助手：	中山 玲子	日本国際問題研究所研究助手

(敬称略、五十音順)

目 次

序 章		長澤 榮治 …… 1
第 1 部	領域国家と国民統合の将来	
	まえがき	長澤 榮治 …… 9
第 1 章	イラク・シリア——サイクス=ピコ体制後の国家の将来	
	1. イラクの現状と将来	吉岡 明子 …… 23
	2. シリアの現状と将来	森山 央朗 …… 31
	3. クルディスタン	
	(1) イラクにおけるクルド	吉岡 明子 …… 44
	(2) トルコにおけるクルド	今井 宏平 …… 52
	(3) シリアにおけるクルド	森山 央朗 …… 57
	(4) イランにおけるクルド	貫井 万里 …… 62
	4. トルコ内政と選挙	今井 宏平 …… 67
第 2 章	パレスチナとイスラエル	立山 良司 …… 75
第 3 章	湾岸諸国の国民国家体制の行方	保坂 修司 …… 87
第 4 章	地域横断的な運動（国境を越えるネットワークと運動）	
	1. アル・カーイダとイスラーム国	保坂 修司 …… 103
	2. 各国のムスリム同胞団	横田 貴之 …… 110
	3. トルコの若者の運動	今井 宏平 …… 118
コラム	国民国家体制を揺るがす、 あるいは強化するツールとしてのインターネット	保坂 修司 …… 120

第2部 社会変容と発展戦略の模索

まえがき	—2030年の中東に向けて	清水 学 …… 123
第5章	中東におけるエネルギー政策と需給	小林 良和 …… 131
第6章	補助金と構造改革	
	1. 産油国の状況	小林 良和 …… 143
	2. 非産油国の状況	横田 貴之 …… 150
コラム	水資源	長澤 榮治 …… 156
第7章	出稼ぎ労働者、若者の失業問題、社会変容	
	1. 増加する若者人口と出稼ぎ労働者	清水 学 …… 157
	2. 人口・識字率・若者の失業率	清水 学 …… 163
	3. 中東のポップ・カルチャー	保坂 修司 …… 168
コラム	難民問題	長澤 榮治 …… 174
第3部 国際関係と国民統合		
まえがき		小野沢 透 …… 175
第8章	域内外交	
	1. トルコの中東域内外交	今井 宏平 …… 181
	2. イランの中東域内外交	貫井 万里 …… 186
第9章	域外外交	
	1. アメリカ	小野沢 透 …… 193
	2. イラン・アメリカ関係 —イラン核交渉の最終合意に向けた展望	貫井 万里 …… 200
	3. ロシア	清水 学 …… 208
	4. 中国	清水 学 …… 213

第4部 2030年の中東——過去から未来へ

第10章 中東の名望家とエリート
——近現代における社会構造の中長期的変動 森山 央朗 …… 217

第11章 日本の中東外交への提言
グローバル戦略課題としての中東研究会
長澤 榮治・貫井 万里 …… 227